

(課程博士・様式9)

愛知教育大学・静岡大学大学院教育学研究科

学位論文審査報告書

審査委員

審査委員長 野地 恒有

委員 小川 裕子

委員 稲葉 みどり

委員 石川 恭

委員 飯島 康之

委員 _____

委員 _____

審査期間 平成 30年 11月 22日 から 平成 31年 1月 26日

審査論文

言語を基盤とした教科等横断的指導による思考力と表現力の相互育成

に関する研究

専攻 共同教科開発学専攻

氏名 山田 丈美

生年月日 昭和 38年 6月 1日

提出日 平成 30年 11月 16日

この論文は、思考力と表現力の相互育成の観点から、初等教育における言語を基盤とした教科等横断的指導の意義と方法を明らかにし、実践による効果検証を行ったものである。論文は、次の6つの章で構成されている。

第1章では、従来の合科的指導の課題を提示し、教科等横断的指導の有効性についての仮説を立て、その実証の方法として、論理的思考スキル・想像的思考スキル・構造的思考スキルの3つを柱とした授業構想を示している。第2章では、小学校教員を対象とした合科的指導の実態調査の結果をもとに、採用群の肯定的受け入れ要因と、非採用群の受け入れ阻害要因について分析し、合科的指導の課題について考察している。第3章では、言葉と数理の論理的思考スキルによる国語科と算数科の教科等横断的指導の実践2例を示している。言葉や数、式、図、表、グラフ等を相互に関係づけて扱い、思考力・表現力の上昇について有意な結果が得られたことを報告している。第4章では、言葉と音の想像的思考スキルによる国語科と音楽科の教科等横断的指導の実践2例を示している。また、言葉と音の両面で「リズム」、「強弱」、「速さ」「表現」に着目して両教科の内容を横断的に扱い、思考力・表現力の育成について一定の有効な結果と共に課題を提示している。第5章では、言葉と絵・動作の構造的思考スキルによる国語科と図画工作科の教科等横断的指導の実践4例を示している。絵の比較、動作化、言語と絵による構造的表現等の教科等横断的指導を行い、思考力と表現力の育成に関し有効であると結論づけている。第6章では、実践を総括し、教科等横断的指導のカリキュラムモデルと思考力と表現力の相互育成モデル図を提示している。他教科における教科等横断的指導の構築、カリキュラム・マネジメント、言語基盤の研究が今後の課題としている。

この論文は、理論、実践、検証、考察等が精緻に記述され、データや資料も添付されており、反証可能なものであり、この分野の実証的研究としては先駆である。また、初等の教科等横断的教育の発展に多くの示唆を与える教科開発学の観点からの論考であり、本教科開発学専攻の学位論文に値するものである。

以上から、博士(教育学)の学位を授与するにふさわしい内容であると認める。